

第2回 新東名夢ロード懇談会

～ 開催報告 ～

2007年12月19日(水)



1. 開催概要



開催日時

12月10日(月) 現場見学会 11:00 ~ 15:00

(富士(工)管内 ~ 静岡(工)管内)

懇談会 15:30 ~ 17:30

場所

ホテルセンチュリー静岡 4階「クリスタルルーム」

静岡市駿河区南町 18-1

2. 委員構成

座長	森地 茂	政策研究大学院大学 教授
委員	池内 克史	東京大学生産技術研究所情報・エレクトロニクス系部門 先進モビリティ(ITS)連携研究センター 教授
	加藤 順介	(株)小糸製作所 取締役相談役
	神野 信郎	中部経済連合会 副会長
	川嶋 弘尚	慶応義塾大学理工学部管理工学科 教授(欠席)
	苦瀬 博仁	東京海洋大学流通情報工学科 教授(欠席)
	平野 次郎	学習院女子大学国際コミュニケーション学科 教授(欠席) (元NHK解説委員)
	マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター、 地域・都市・まちづくり研究所所長(欠席)
	森川 高行	名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻 教授
	横山 雅子	(株)マックス・ヴァルト研究所 代表取締役社長
	渡邊 浩之	トヨタ自動車(株) 技監

(敬称略、五十音順)

3. 新東名夢ロード懇談会の主旨



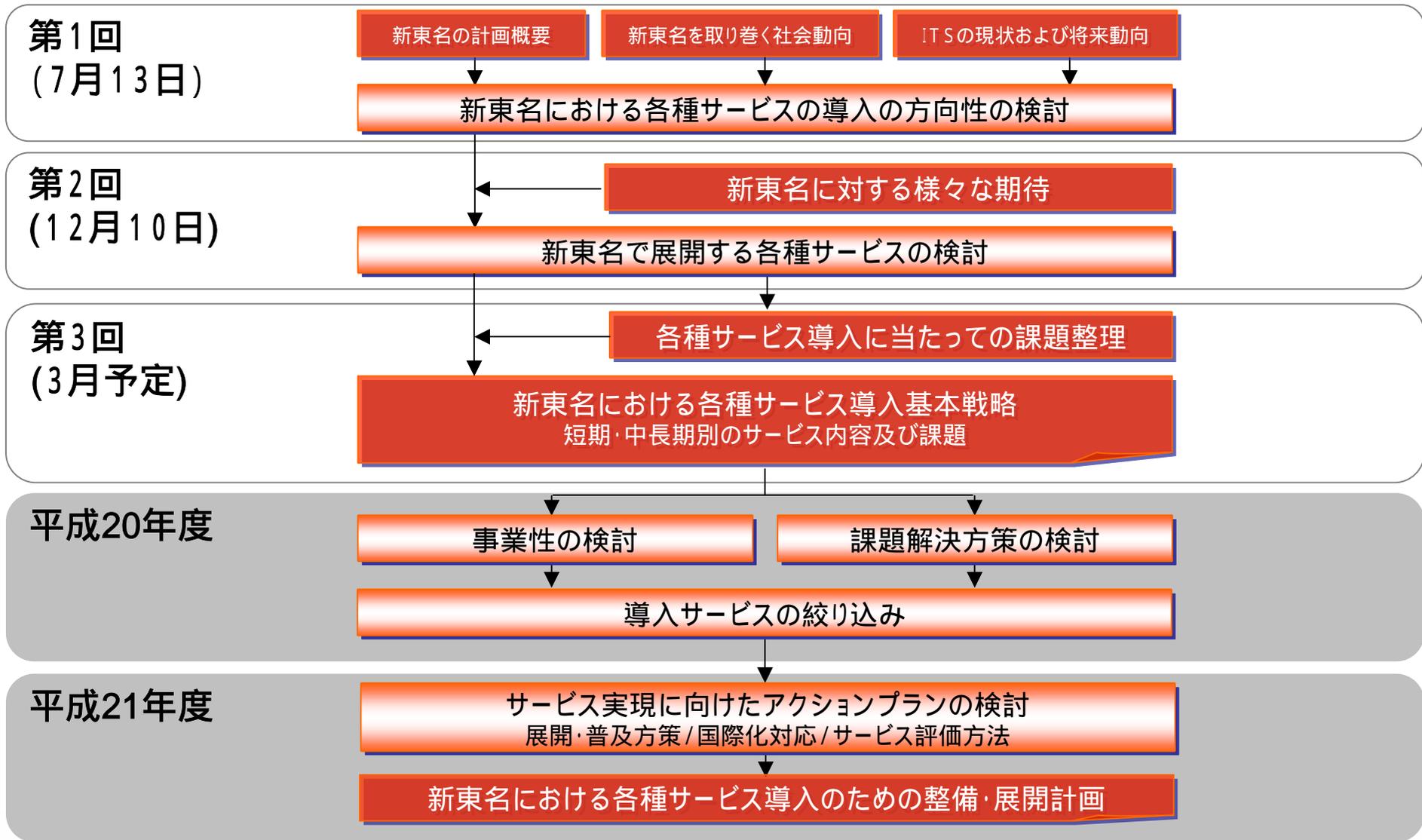
【背景】

- 新東名高速道路は、今後のわが国の基幹的な道路ネットワークの一翼を担うものであり、特に物流の利用が多いものと予測されている。
- 一方、カーナビゲーションシステム・VICS、ETCといったITSの普及が進んでいる。ITSで想定されているサービス体系には、安全運転の支援、商用車の効率化、道路管理の効率化など、新東名への適用が有効なものもあると想定される。
- すなわち、新東名を単に現東名高速道路の補完機能に留めることなく、今後の社会、経済の動向を踏まえ、日本の最先端技術を活用した将来の道路交通システムを具現化する場として展開して行くことが重要である。

【主旨】

- わが国が世界に誇るべき社会資本である新東名において、「世界をリードする高速道路システム」を構築するため、新東名に相応しい夢のある各種サービス及びその展開の方向性等について、有識者の方々にご議論いただく。

4. 新東名夢ロード懇談会のスケジュール(案)



5. 主な審議内容

今回実施した一般利用者へのアンケート結果から、現東名においては主に「トラックが多くて危険に感じる」、「事故が多いと思う」、「いつも渋滞していると思う」などの安全・安心や渋滞に関する課題があるのに対し、新東名は「渋滞がなくスムーズな」、「トラックと乗用車が混在しない」高速道路になるよう、期待されていることがわかった。

今回実施した物流事業者へのヒアリング結果から、安全性の向上、人件費や燃料費等の物流コスト低減や環境負荷軽減等が期待されていることがわかった。

懇談会での主な意見は以下の通り

- ・自動走行に関するアンケート結果では、世代間のニーズの違いが明確に現れている。特に若い世代でニーズが高いのは、車そのものより情報や情報通信機器に対してお金を費やす傾向があるなど、重要かつ特徴的な調査結果になっている。
- ・自動車そのものの技術は相当進歩している。しかし、一般の方はそのような技術があることを知らないかもしれない。もっと、車の技術開発などの情報提供を行う必要がある。
- ・予測に寄ればオイルピークは2030年頃であり、ガソリンの値段も更に上昇すると思われる状況下で、自動車のエネルギーの主力は電気に移行していくであろう。エネルギーが電気に変われば制御しやすくなり自動運転が現実味を帯びる。

5. 主な審議内容

- ・世界が変わろうとしている今、日本が主導的な立場を担い、新たなことをしなければならない。日本の輸送コストは米国の2.8倍程度であり、コスト縮減を図ることは地方経済の活性化にもつながる。
- ・物流事業者にとって、ドライバー不足は深刻な問題となっている。例えば、米国は中米から労働力を輸入できるが、日本ではできないため、ITSをはじめとした技術開発により克服する必要がある。
- ・道路交通は、「インフラ」、「ユーザー」、「自動車」の三者で成り立っている。この三者が一体となり新しい道路づくりを行っていくシステムが重要である。
- ・今後の自動走行を考えたとき、トラック専用レーンという考え方もあるが、定時走行レーンという考え方もある。
- ・新東名は貨物車と一般車の分離を行うことが必要であり、また、地域の活性化につながるような機能・施設を持った道路としていくべきである。
- ・外国からの観光客が増加し、レンタカーでドライブできれば、車利用者が減少するとの考え方も変わるのではないかと。外国人観光客への対応のためにも、ハード・ソフトの両面からインフラを整備する必要がある。

今後は各種サービス導入の検討にあたっての課題や効果を整理した上で、今年度中に、新東名における各種サービス導入の基本戦略をとりまとめることとされた。

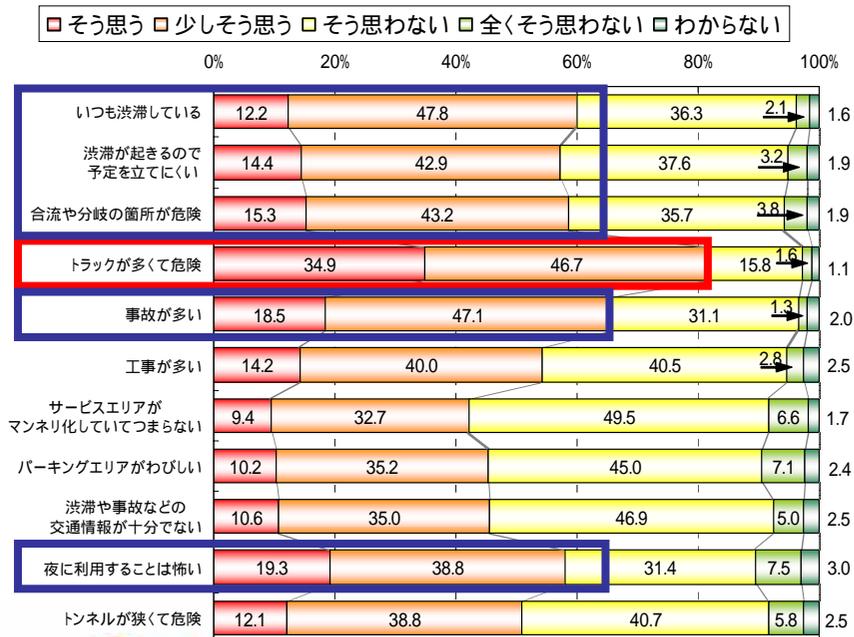
6. 新東名への期待の整理 一般利用者



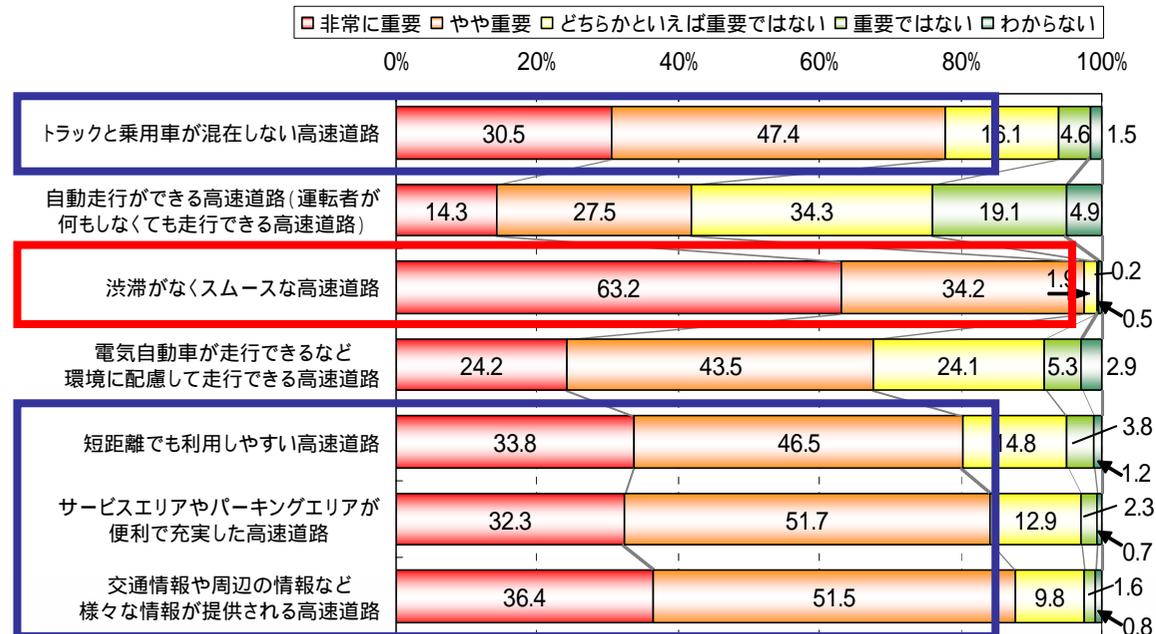
現東名の課題と新東名への期待

- ・現東名の課題としては「トラックが多くて危険」という課題が、「そう思う」「少しそう思う」回答が約82%と最も高く認識されている。「事故が多い」、「いつも渋滞している」、「合流や分流の箇所が危険」、「渋滞が起きるので予定を立てにくい」などが、認識の高い課題群である。
- ・新東名への期待としては、「渋滞がなくスムーズな高速道路」という期待が、「非常に重要」「重要」回答が約97%と高く、「様々な情報が提供される」、「SAやPAが充実」、「短距離で利用しやすい」といった快適性や利便性の向上、「トラックと乗用車が混在しない」という安全・安心の向上となっている。
- ・他方、「自動走行ができる」や「電気自動車が走行できる」等の期待はやや低い。

現東名の課題



新東名への期待



6. 新東名への期待の整理 一般利用者



一般利用者の期待の整理

安全・安心の実現

トラックが多くて危険

事故が多い

分流・合流が危険

夜に利用することが怖い

トラックと乗用車が混在しない
高速道路

サービス

危険な情報を知らせるサービス

リアルタイムで渋滞情報を知らせるサービス

車両の接近を知らせるサービス

周辺の情報を提供するサービス

ドクターヘリと連携した事故等での対応サービス

トラックに対する専用車線の整備

異常を常に監視するITシステム

環境への配慮

いつも渋滞

渋滞がなくスムーズな高速道路

電気自動車が走行できる
高速道路
(若年層・高齢者で高い期待)

多様なライフスタイルの実現

いつも渋滞

夜に利用することが怖い

渋滞が起き、予定を立てにくい

渋滞がなくスムーズな高速道路

様々な情報が提供される
高速道路

SAやPAが充実した高速道路

短距離でも利用しやすい
高速道路

活力ある社会の実現に向けて

課題

期待(方向性)

6. 新東名への期待の整理 物流事業者

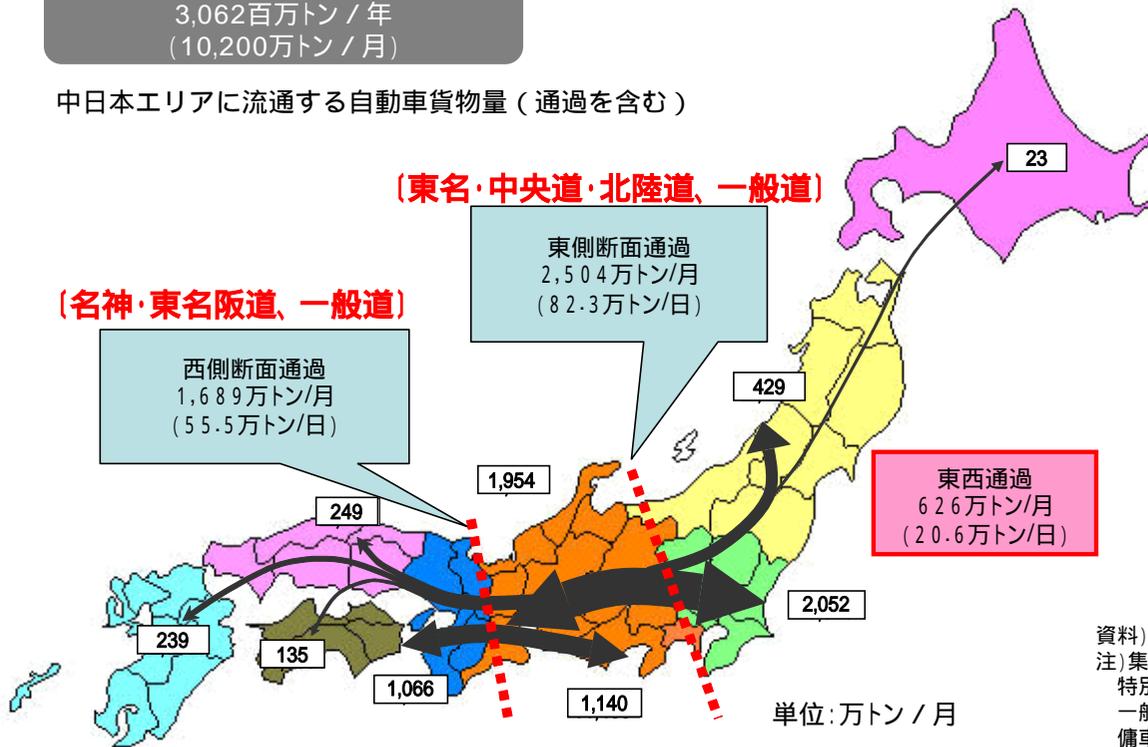


わが国全体の貨物流動の状況

- ・東名高速道路は、大都市圏間を結ぶ長距離型の輸送などわが国の貨物輸送の大動脈。
- ・一方、一般貨物運送事業者のコスト構造をみると、約4割がドライバーの人件費となっている。

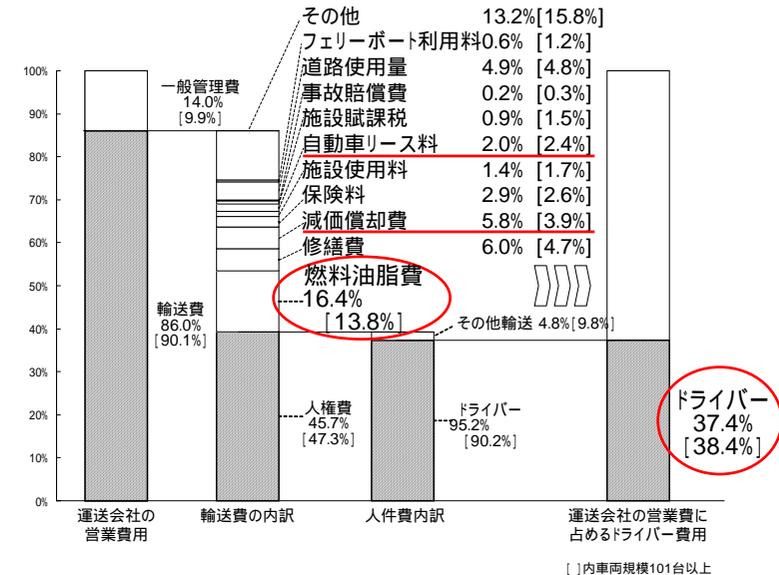
全国の貨物流動量
3,062百万トン/年
(10,200百万トン/月)

中日本エリアに流通する自動車貨物量（通過を含む）



国土交通省 陸運統計要覧による「自動車貨物都道府県別流動調査結果(平成16年10月分)」より作成

一般貨物運送事業者の営業費用の内訳 (1社平均)



資料)「経営分析報告書 - 平成17年度決算版 -」(平成19年2月、社団法人全日本トラック協会)
注)集計対象基準は、

- 特別積合せ貨物運送事業者、霊柩運送事業者を除く一般貨物自動車運送業者
- 一般貨物自動車運送事業(本業)の売上比率が80%以上の事業者
- 備車売上比率が20%以下の事業者
- 日車当たりの輸送トン数と営業収益が一定基準内であること
- 営業報告書等のデータに不備のない事業者

なお、平成17年度決算営業報告書提出企業数は4,739社



中日本

6. 新東名への期待の整理 物流事業者



物流事業者の期待の整理

安全・安心の実現

仮眠・休憩所の確保

高齢ドライバーへの対応

適切な安全情報の提供

貨物車と一般車の分離

活力ある社会の実現に向けて

ドライバーの人件費の削減

ドライバーの確保

燃費の向上

省力化・無人化

貨物車と一般車の分離

定時性の確保・平均速度の向上

サービス

貨物専用レーンの設置

連結走行の実施

自動隊列走行の実施

- 中小業者も利用可能であること
- 自由なダイヤ設計を可能に
- 連結に要する時間：問題である、明らかなら問題ない
- 隊列：自社でなければ困難、複数社で可能がよい

貨物車位置情報の提供サービス

デジタコとの連携(リアルタイム)

高齢ドライバーへの各種情報提供

- 効果の実証

環境への配慮

燃費の向上

環境配慮の社会的要請

鉄道輸送の条件(容量、時刻)

エコドライブの実現

モーダルシフト

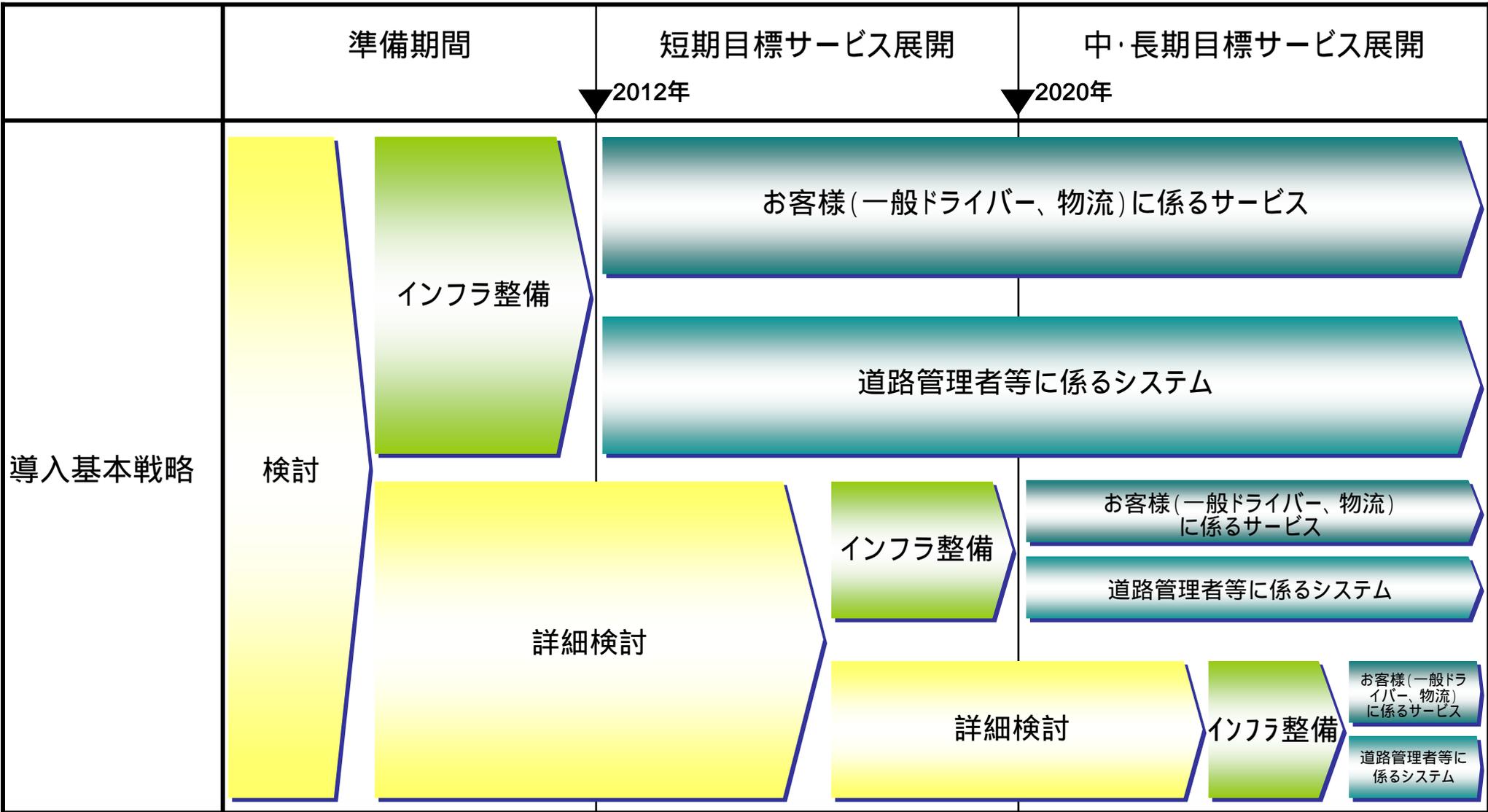
SA/PAでのエネルギー供給による
アイドリングストップ支援

多様なライフスタイルの実現

課題

期待(方向性)

7. 導入基本戦略(イメージ)



8 . 開催状況 (現場見学会)



8. 開催状況(懇談会)

